

同窓会会報

第51号

平成5年5月25日
発行所
茨城県東茨城郡
内原町鯉淵5965
鯉淵学園同窓会
☎319-03 TEL 0292-59-2811
振替口座 字都宮3-1632番
印刷所
佐藤印刷株式会社

「同窓会長 渡辺正信氏逝去」

事務局長 岩 持 文 彦

渡辺会長は、昨年三月から六月まで筑波大学附属病院に入院して、放射線による膀胱ガン治療を行い、その後は週一回通院の自宅療養、十一月再入院と、全力を尽くして闘病生活を送っておいりましたが、薬石効なく、二月二十四日召天されましたので、お知らせしますとともに、謹んでお悔み申し上げます。享年六十二歳。

葬儀は、三月二十日午後一時より、水海道市所在の、宗教学法人独立水海道キリスト教会で執り行われ、学園長並びに同窓会副会長ほかの弔辞の後、都道府県各支部からの弔電代奉、参列した学園教職員及び同窓会員多数の献花のうちに厳粛に送葬、会長がこよなく愛した千代川村は、鎌庭の墓に還られました。筑波山を東方に展望する、鬼怒川沿いの静かなところでした。

市において出生、昭和二十三年富士山麓の農場で落馬重症した折、実兄から贈られた聖書に求道入信以来、教会活動に励む。一方、昭和二十七年鯉淵学園を卒業、茨城県職員となり、平成元年岩井地区農業改良普及所長を最後に退職し、学園教授となる。

その間、同窓会活動にも熱心に関与し、常任委員、副会長を経て、平成元年十一月会長に就任し二期目途中であった。

特に、支部活動の活性化方針を強力に推進、軌道に乗りにかけた矢先きの召天は、本人にとっても、さぞ無念の上もないこと、本会にとっては、大変な痛手、大きな推進力を失ってしまいました。が、この悲しみを乗り越え、同窓会事業を立派に成し遂げてこそ、渡辺会長の生前の努力に報いるものと決意を新たに進みます。

ここに、渡辺会長の、これまでの功績に深い敬意をあらわし、安らかなご冥福をお祈りします。

同窓会の会長代行を引き受けるにあたって

会員の皆様には、ますます御健勝にて、ご活躍のこととお喜び申し上げます。

同窓会の活動は、会員の皆さんのご協力により、定められた事業計画に基づき、その業務を執行しているところでありました。

すでに、ご存じの方も多いことと思いますが、渡辺正信会長は、病氣療養中でしたが残念ながら今年二月二十四日逝去されました。同窓会として現役会長を失い誠に寂しいかぎりでありました。ここに、渡辺会長のこれまでの、ご活躍と、ご指導に対し、皆さんと共に、感謝申し上げます、皆さんと共に、だいであります。

このような状況にありますので、去る三月に開催しました常任委員会において、同窓会規約に基づき次期大会(平成五年十一月)まで、会長代行を務めることになりました。

このような大役をやることになるのは考えもしなかったのですが、次期執

最後に、故人愛唱聖句(墓石碑)
「神は、我らの避け所、また力。苦しむ時、そこにある助け。」

副会長 福丸博房
(東京支部 9期)

行部に引き継ぐまで、皆様のご協力を、お願い申し上げます。

学園も創設以来五〇周年を迎えようとしています。このような、長い年月のなか、幾多の変遷を重ねながら教育理念であります「業学一致」のもと、農村における指導的役割を担う人材を全国に送り出しているところであり、

来るべき二十一世紀に向け、日本の農政の方向等を展望しながら、学園の教育の在り方等について、理事長の諮問機関として、「鯉淵学園の改組等に関する検討会」がもたれ、その会に同窓会代表の委員の一人として参加し、三月末に在学期間を「本科四年制」に改めること等をもりこんだ「新しい鯉淵学園の在り方」について答申をしたところでありました。

このような、情勢のもと、すでに決定しています五〇周年記念行事について、同窓会は、農民教育協会、鯉淵学園と一体となって、この大きな節目でもある記念行事を成功させるために、

準備委員会をもって、その具体的な協議をしていきます。詳細については、次期大会で決めてもらうことになりまして、皆さんの絶大なる、ご支援、ご協

学園長就任にあたって

穴戸 弘明

去る四月一日付けで鯉淵学園の学園長に就任いたしました。昨年十月に副学園長に就任した折りにこの会報で述べた心積もりに変わりはなく、学園発展のために努める所存ですので、よろしくお願いいたします。

教務部長の安藤教授から詳しく記されているように、入学生は近年一〇〇名の定員に満たない状況が続いていますが、今年度は多くの入学生を迎えることができました。このことが在校生にも影響して活気をもたらし、また教職員にも自信が湧いてまいりました。入学生の急増はパブルがはじけたためという見方もありますが、私は必ずしもそう思っておりません。むしろ、一層の厳しさが予想される農業とその関連分野に携わろうとするならば、しっかりとした科学的知識とそれを裏付ける技術の習得が欠かすことができないという点を反映していると考えています。何れにせよ、来年度以降もこうした状況が続けばと願っていることは同窓会の皆様方と同じです。

所で、鯉淵学園の組織、運営に全く

力をお願い申し上げまして、同窓会会長代行を引き受けるにあたっての挨拶とさせていただきます。

問題がないわけではありません。時代の流れから見ても学園の法制上の位置付け、修業年限と取得資格、学科およびコースの構成、教科内容等々であります。と同時に本学園の卒業生が地域のみならず、広く農業界の先導的役割を果たしてきていることから、学園の教育がわが国の農業政策、とりわけ断絶い農業政策の中で重要な役割を担うことが要請されています。

こうしたことから学園内部では数年前から検討してまいりましたが、平成四年五月に勸農民教育協会が主宰して「鯉淵学園の改組等に関する検討会」が設置され、本年三月には「鯉淵学園の刷新方向」としてまとめられました。この方向はその後協会役員会で承認され、学園改組に向けて本格的な作業が開始されたところです。

学園の刷新方向のごく骨子を紹介しますと、建学以来の「農業者および農村指導者の養成研修」を教育の大方針として堅持し、鯉淵学園でなければ成し遂げられない学風を構築する。こうした基本方針にたつて、具体的方策と

して、(一)「遠隔の地から鯉淵で学びたい」という魅力と特色をもった教育内容と新農業政策が掲げる担い手の育成に資する教科内容とする。(二)「本科四年制」に改め、教育組織を「農業経営科学科」(定員八〇名、作物・園芸コース、畜産・加工コース、経営・流通コース)と生活栄養科学科(定員四〇名)とする。(三)各県農業大学校(二年制)の「大学院的学園」として、その卒業生の本科三年への編入制度を恒常化する。(四)教科内容の充実を機に「専修学校(四年制)」に衣替えする。

学園改組による四年制第一期生の入学を平成七年四月を予定して、現在準備

入学状況報告

教務部長 安藤 義道

備に取り組んでいます。またこの年は学園の創立五〇周年記念の年でもあります。記念事業につきましては同窓会の諸先輩とも相計りつつ、事業の原案を作成する準備委員会を近々発足させることにしています。学園の刷新計画と創立五〇周年記念事業がともに成功し、その成果が見事にドッキングした時、創立半世紀を迎える鯉淵学園の新たな飛躍と発展が約束されると信じています。

その日に向けて、私どもが努力を重ねるのは当然ですが、同窓会の皆様にも全面的なバックアップを頂ければとお願いする次第です。

遅かった桜の開花も過ぎて、学園にはまたあわただしい日の毎日が訪れてまいりました。うれしい悲鳴のあわただしさですが、とくに新入生の組主任にあたられた先生方にとっては、本当にかれらが落ち着いてくれるまでは気が休まらないことと思います。

さて、同窓生のみなきまには、これまで再々にわたりこの紙面をお借りして学生募集のご協力をお願いしてまいりましたが、おかげさまで平成五年度は第一、次選考の段階で定員を大きく

超えて、(一)「遠隔の地から鯉淵で学びたい」という魅力と特色をもった教育内容と新農業政策が掲げる担い手の育成に資する教科内容とする。(二)「本科四年制」に改め、教育組織を「農業経営科学科」(定員八〇名、作物・園芸コース、畜産・加工コース、経営・流通コース)と生活栄養科学科(定員四〇名)とする。(三)各県農業大学校(二年制)の「大学院的学園」として、その卒業生の本科三年への編入制度を恒常化する。(四)教科内容の充実を機に「専修学校(四年制)」に衣替えする。

さて、同窓生のみなきまには、これまで再々にわたりこの紙面をお借りして学生募集のご協力をお願いしてまいりましたが、おかげさまで平成五年度は第一、次選考の段階で定員を大きく

一、本科
志願者数 一四四名
入学者数 一三三名
科別 農業科 一〇五名
生活栄養科 一八名

出身校課程別

普通高校(普通科)	六五名
農業高校(農業科)	四六名
工業科	六名
商業科	二名
家庭科	二名
国際科	一名

出身県の範囲

北海道から沖縄県に到る三四都道府県より入学
 出身県別に多い県
 茨城県二六名、新潟県一名、埼玉県一〇名、千葉県一〇名

二、本科三年編入

志願者数 一四名
 入学者数 一名

内訳 岩手県立農業大学校 一名

埼玉県立農業大学校 一名

広島県立農業大学校 一名

島根県立農業大学校 一名

鹿児島県立農業大学校 七名

三、普及専攻科

志願者数 二八名
 入学者数 二三名

専攻別内訳 園芸専攻 二四名

畜産専攻 四名

食物専攻 五名

四、選科

志願者数 四名
 入学者数 四名

この中には青年海外技術協力隊志願者二名が含まれる。

五、青年海外技術協力隊研修生

内訳 野菜専攻 四名

食用作物専攻 一名

このように、本科からあがった普及専攻科生を除いても一四二名の新しい仲間を迎えることができました。その結果、本学に久しぶりにキャンパスに活気が戻った感があります。

学生諸君の気質もだいぶ変わってまいりましたから、以前のように、応援練習をやるとか、肝試しをすとかはなくなりましたが(これは一概に学生諸君のせいにはできない周辺の社会状況の変化もあります)、先日、にぎやかに新歓行事も催されました。

このハードスケジュールや環境の変化によるストレス、一部人間関係のもつれなどの状況もみられますが、連休も明ければ落ち着いてきてくれるというのが例年のパターンです。

しかし、みなさまのもとにもご相談に伺いましたら、先輩としてのアドバイスを頂戴できれば幸いです。

以下、例年に準じて、優先入学要項を掲載させていただきます。来年度も引き続きご推薦下さいますよう、お願い申し上げます。

鯉湖学園優先入学案内

一、推薦定員

農業科 定員の約一〇％
 生活栄養科 定員の約一〇％

二、推薦条件

ア 平成五年三月高等学校卒業見込

者および平成四年三月高等学校卒業業者のうち、学力と人物について本学教職員ならびに同窓会関係者が推薦する者

イ 学力は高等学校調査書の概評がC段階以上の者で、全科目平均が二・〇以上、二以下の科目が三つを

超えない者

ウ 本学園各料の推薦入学基準を満たしている者(下記二(イ)および三(イ))

三、推薦入学基準

(イ) 農業科

ア 農業の後継者になろうとする者

イ 農業およびその関連産業で指導者あるいは技術者になろうとする者

ウ 国語と生物の素養をもち、社会に貢献しようとする者

農業科は一般教養と基礎知識を重視しつつ、作物・園芸や畜産、バイオテクノロジーや情報処理にいたる専門教育につとめている。

授業は講義、演習、実験、実習、卒論、学外派遣実習などをバランス良く配し、講義と実技の総合的な教育成果を期待している。専攻は、二年次から園芸コースと畜産コースに分かれ、さらに三年次からは特別研究(卒論ゼミ)別に分かれる。特別研究は農業経済、農業

経営、そ菜、花卉、作物保護、畜産、酪農など一研究室がある。

バイオテクノロジーや情報処理も講義、演習、実験の他に、特別研究という形で、独自に学習や研究を進めることができる。

(ロ) 生活栄養科

ア 農業の後継者になろうとする者

イ 農村生活の指導者あるいは栄養士になろうとする者

ウ 食料と栄養の諸問題に関心をもち、社会に貢献しようとする者

今日、都市と農村の共生から生まれるメリットを活用吸収して、さまざまな価値観実現の場としての生活が考えられるようになっていいる。生活栄養科では、食についての諸科学を中心に、農業と生活、農業と栄養の関係を学ぶ。食品の栄養と化学、保健衛生、福祉、家庭のあり方、地域社会などへの理解を深めながら、文化ゆたかな農村生活を志向する教育を行う。二年次には農業経済、農業経営、農村社会、栄養、病態・特殊栄養、食品加工、食品科学、家庭管理等の研究室に分かれて特別研究(卒論ゼミ)を行い、パソコン利用の栄養管理、農村の生活などの専門的な研究を進めることができる。

新任教授紹介

学園の教師になって



地方公務員の生活から四月一日より学生相手に教える職業に変わった。正直云って大きな不安があった。これは現在もある。

四月一日に指定された時間より若干早く学園に着く。若い学生に会う。彼らは誰も知らない私に「こんにちは」と声をかけてきた。若者がハツラツとして声をかけてくる、大きな驚きであるとともに今日から彼らと共に野菜園芸を学ぶことに喜びを感じた。これが初日の感想で、この気持ちを在職中は大事にしたいと思った。

今日でここに来てから一カ月半経過し幾分慣れてきて周囲を見渡す余裕がでてきた。学園内は大きな木が栽植されておき、歴史を感じると共に学生がこの大木のように確りと地面に根を下ろして二一世紀に活躍する青年に育てて欲しいものだと思う。同時に誘導する役目を職員一同が課せられているのだと痛感する。施設環境は必ずしも充分とはいえないが、若い先生方を中心にして（これは私がそう感じるので悪しからず）教育指導に努力されている姿に

小沼 寛
は頭が下がる思いがする。
ところで受ける側はどうだろうか。
私の授業だけだろうか、理解しにくい



大樹と自然と教育と

中島 紀一

のか反応が少ない。一層努力する必要があるとは考えるのだが、インプットしてもアウトプット出来ないのは残念だ。目的意識のはっきりしている学生はよいのだが、苦痛に感じる学生もいるのだろう。目的意識の少ない学生が少数だが在籍することも否定出来ない事実なのだろうか。それともこれが平均的若者像なのだろうか。若者を理解するには時間がかかりそうだ。

鯉淵学園に勤務するようになって一月半が経ちました。学園の風景は桜から新緑へと移り、麦もそろそろ実りの時期にさしかかりつつあります。鯉淵学園にお世話になるようになってますますなりより嬉しかったことは、大きな樹木が沢山あることでした。私の前任地は筑波学園都市（筑波大学）で、きわめて人工的な環境のもとにいたので、鯉淵学園の大きな自然はとりわけすばらしいと感じられました。まだ仕事の進め方がよくつかめず、学園内を散歩して自然を楽しむといった余裕はありませんが、研究室からの眺めだけでも心が安らぎます。

鯉淵学園に転勤して第二の印象は、各地で活躍されている卒業生が大勢おられるということでした。先日、栃木

が一体となって行う環境整備には驚きました。その日の私の分担当は竹林の手入れでしたが、学生たちが慣れた手つきで孟宗竹を切り倒して搬出していく姿には感動しました。また、学生食堂が学生の手で運営され、学園の農場の生産物が食卓を飾るというシステムにも感心しました。何もかもが商品化されつつある今日の日本で、自治の精神を生活の場で具体的に実践している学園の方式は、現代的にもたいへん意味のあることだと感じました。

主な授業担当は関先生のあとをうけて農業経営学（二年生）となっております。そのほか、地域農業論（一年生）、農村環境論（専攻科）なども担当する予定です。研究としては総合農学、農業技術論などが専門で、戦後の民間技術史の調査や新しい時代における農業、農村のあり方についての政策研究などのテーマに取り組んでおります。まだ経験も浅く不十分なところばかりですが、精一杯がんばりたいと思っております。なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

都道府県支部長会議結果報告（続）

事務局長 岩持文彦

昨秋、全国五地域で開催した都道府県支部長会議は、支部組織、機能の充

実強化等支部活動の活性化方針で、合意が図られ終了したことは、会報五〇

等をもって既報したところであるが、原稿締め切りの関係から、最後までお知らせできなかったことを、改めて続報します。

今回の支部長会議は、学園創立五十年記念事業推進を主題に、本部先行を避けて、多くの会員から意見を聞くと同時に、同窓会活動の啓蒙宣伝の必要から企画されましたが、途中から、改組問題が飛び込み、周章狼狽の感じ強い中での実施となりました。

平成四年六月十三日開催の常任委員会では、創立五十年記念事業に関し、協会及び学園の意向が明らかでない今は、独断、先走りを慎しみ、広く会員の理解を求めることが大切であるとの判断から、先ずは、支部長会議の開催となったわけです。

ところで、事を起すには、先ず財政の裏付けがなくてはなりません。全精力を振り絞って、資金づくりに傾注していた時には、学園長を通じて、「学園改組について、支部長等卒業生の意見を、幅広く開きたい。」とする理事長の急な申し入れを受け、事務局全員協議会（学園に在職する卒業生）の合意のもとに、取りあえず、八月二十二日、学園を会場に、関東甲信越福島県支部長及び常任委員並びに若年農業経営者等合同会議の運びとなりました。

引き続き、他の四地域で開催し、協議、意見の概略は次のとおりです。

I 学園改組について

四年制移行は、時代の趨勢であるとしながらも、古き良き時代も捨てきれない思いが強く懐古され、鯉淵ならではの感じに集約されました。

1 四年制大学に移行（この場合、相当の財政負担は当然。）とする意見も出たが、大勢としては、農林水産省所管の各種（専門）学校としての特色を生かし振興を図る。

2 国際化時代に即応して、海外からの学生を積極的に受け入れ、国際農業大学校色を鮮明にする。

3 国際交流協会又は海外協力事業団等との連携を強化して、海外派遣員に対する農業実習研修制度の拡大を図る。

4 学生募集対象を、高校生に限定せず、リターン者、転職者及び退職者等まで拡大し、講座やコースを多様化して学生増を図る。（この場合、授業料の増額はやむを得ない。）

5 学園卒業生を講師に迎え、実践者による教育内容の充実を図る。

6 各種免許、資格の取得拡大を図る。

7 名称は、農業教育施設であることが一目瞭然と、誰にでも理解できるように改める。この際、鯉淵の名は除き難い。

II 同窓会支部組織、機能の充実強化について

に総会を開いている支部を除き、再編成の必要を感じながらも、積極的に発議されないまま現在に至っている支部が大半である。要するに、話しきりかけをつかみ損ねていた感じであり、この会議は、絶好の機会であったとも評価できる。

今回の支部長会議を契機として、早速、支部の再編成に着手することで合意が図られたが、一方、会員の動員等全く読みきれない事情も見逃せない。

1 役員刷新、世代交代の時期である。特に、同窓会設立当初、会長指名で誕生した多くの支部長の願望でもある。

2 会費納入の督促、指導前に、会員個人毎の納入状況を把握する必要がある。従来の納入通知が不特定（納入済者にも通知）のために、自分のことも判然とせず何回でも納入した実績がある。従って、支部会員に対して指導できないでいるのが現実である。会費納入者名簿を整備して、このような不安を解消する。

3 支部長会議の定例化。支部相互、或いは会員間の情報交換、交流の機会が少ないために、活動意欲が湧かないのではないかと。他県支部の状況を見聞しながら、本来の姿を探り、育成する必要がある。

このことは、本会活動のみにとどまらず、卒業生間の交流を刺激

して活発化し、学園の振興にも寄与する。

4 新しく会則を制定する場合は、支部規約（会則）のひな形再確認及び先進支部の会則を参考にする。

5 卒業生の著書その他作品を、一堂に陳列して実感理解、活用を図って社会的評価を高める。

III 学園創立五十年記念事業について

私達、同窓会員は、学園創立以来の申し子を自負し、これまでの実績を勲章に、更に積み重ねて、後世に引き継いでゆく責任がある。使命と言っても憚らない崇高な活動拠点でもありましよう。言葉の「あや」は別として、誰しも、同じ気持ではないでしょうか！

この時期、具体的事業内容がないことから、突っ込んだ協議は持てませんでした。別記「鯉淵学園創立五十周年記念事業の進め方」によることで合意が図られ、かつ、中国四国会場において集約された「心打たれる趣意書」が、強烈に印象づけられる結果となりました。

なお、記念事業の内容については、この三月、協会が発表した「鯉淵学園の改組に関する検討委員会報告」の中から、その全体像が浮上、近く準備委員会を組織して原案作成が取りざたされているので、別項記事によりご理解下さい。

以上、支部長会議の概略ですが、事

務局の不馴れと準備不足から、支部長各位には大変ご迷惑をおかけいたしました。また、開催地支部の皆様には、方ならぬお世話をいただきありがとうございます。ございました。末尾を借りて、お許しを願ひ、お礼申し上げます。今後とも、学園並びに本会発展にご支援下さいませようお願いします。

次に、前回報告できなかった中国四国及び九州会場の出席者をご紹介します。○内数字は卒期。
へ中国四国ブロック

鳥取県支部長 平木郁夫⑦、島根県同 竹下盛雄⑨、岡山県同 川上良三②、広島県支部代表 石田一成⑩、山口県支部長 阿川宗一郎⑤、徳島県支部代表 上田 忠④、香川県支部長 寒川秀男⑩、愛媛県同 梶谷勝正⑦、高知県同 下村 至⑩、副会長 福丸博房⑨、事務局長 岩持文彦⑦
へ九州ブロック

福岡県支部代表 三島守人⑥、佐賀県支部長 小林康則④、熊本県同 高崎 勝⑧、同事務局 吉丸民雄②、田端義雄②、宮崎県支部代表 山田洋一⑩、鹿児島県同 中島謙徳⑦、沖縄県同 山里昌明⑩、副会長兼常任委員長 高橋隆三⑨、事務局長 岩持文彦⑦
別記、鯉淵学園創立五十周年記念事業の進め方

1 事業内容

て、それぞれ成果を取ってまいりましたが、今回は、五十周年という大きな節目に相応しい事業を工夫して、学園発展の一助にと考えます。
学園及び協会によって、正式に決定され次第、直ちに活動して、事業目標の完遂を図る方針です。

2 発起人

事業の趣意に、ご理解とご賛同を賜り、多数の方々に参加していただく方針です。

同窓会創発起人としては、次の方々にお願ひしたいと思っております。会長、副会長、常任委員、都道府県支部長、同前支部長、各卒期代表、通信課程各卒期代表、その他
3 記念事業実行委員会
発起人の中から委員を選任し、きめ細かく会議を開いて綿密に進行管理し、事業の円滑な推進を図る考えです。会としては、会長、副会長、常任委員、近県支部長及び近県各卒期代表若下名を選任したいと思っております。

常任委員会報告

平成五年三月十三日(日)、同窓会館に招集された定例会は、渡辺会長のご逝去の悲しい運びとなりました。協議内容

〔九期、埼玉県在住〕の就任を、全会一致で決定し、三月十五日付都道府県支部長あて通知する。

2 支部強化対策について、別掲「都道府県支部長会議結果報告」に基づき質疑応答の結果、全体的に、突っ込み不足の指摘をうける。

3 年度会費の督促及び終身会費納入依頼について協議の結果、会費納入者名簿を整備のうえ、未納者特定した納入通知の実施を決定した。別掲「会費納入通知」を参照。

4 改組検討委員会開催状況、第四七期卒業生等新入会及び平成五年度新入生合格状況の報告をうける。

5 その他として、平成六年度学園施設整備について説明をうけ、創立五十周年記念事業関連質疑後閉会する。出席者は次のとおり。○内数字は卒期。

福丸博房(副会長⑨)、高橋隆三(副会長兼常任委員長⑨)、岩持文彦(常任委員 茨城⑦)、福川正夫(同⑩)、船橋和江(同⑩)、篠原要(同栃木⑩)、前原敬(同埼玉⑩)、杉本守城(同千葉⑩)、西村典夫(同学園、以下同じ④)、関正治(同④)、砂田義雄(同⑤)、坪野敏美(同⑦)、上藤徹郎(同⑩)、佐藤利文(同⑩)

総合自主研修館建設構想

授必至
平成六年度鯉淵学園施設整備計画及び、この三月協会から発表された改組等に関する検討会報告「鯉淵学園の刷新方向」の中で、四年制移行のメーンとしての総合自主研修館構想が明らかになった。

その内容は、図書館、小教室を主力に、木造二階建て、五七〇平方メートル、億七千万円、資金の大部分は、国庫助成によって調達されるが、内部施設及び後統計画の多目的研修ホール、メディア館、学生指導室等資金要調達はめじろ押しである。

学園創立五十周年記念の時期に、更に、四年制移行という輝かしい進展を遂げようとしている母校への饒けにも、総合自主研修館の建設を後押しし、立派に完成させたいものである。

学園では、五月十三日運営委員会を開いて、創立五十周年記念事業の原案を作成するための準備委員会の発足を決めた。この委員会には、本会に対しても委員二名の推薦要請があり、会長代行及び事務局長内諾し、近く委嘱される予定である。

創立五十周年記念事業構想は、準備委員会の初会合によって本格的に始動することになるが、同窓会では本格活動は、十一月の第二十、回大会終了後となる見込み。

不和火会(熊本県支部)総会開催

事務局 吉丸 民雄(24期)

恒例の不知火会総会が、一月の最終日曜日(三十一日)熊本市「焼肉友宝」において、会員二十一名参加で開催された。

高崎会長の挨拶、九州ブロック支部長会議の報告があり、議事に入る。規約改正の承認後、会長の再任、新たに高木副会長(十期)と幹事六名を選任した。

幹事は、支部活動体制の強化を図るため、県内を六ブロックに分け、それぞれ一名を配置したものである。

総会終了後、本年厄晴れの野満氏(二十七期)と宮崎氏(二十八期)に、会

長より記念品が贈呈された。後、奥村氏(二期)の乾杯で懇親会となり、友宝名物馬刺し、琢磨焼酎を酌み交わしながらの近況報告で、一年振りの親交を深めた。

最後は、寮歌斉唱、鹿江氏(三期)の万歳三唱で閉会となる。



村田③ 吉丸②④ 鹿江③ 井晴生②⑥ 坂田③ 野満②⑦ 吉本②
高時⑧ 原田⑨ 那須④③
中村⑨ 奥村② 井芳美②⑦
田端②⑧ 馬原②⑥ 岩間②⑨ 伊藤②⑦ 宮崎②⑧
(高木⑩ 森川⑩⑥ 松本②⑨は撮影時不在)

中国・三江平原農業総合試験場

(ハルビン)における近況(四年七月)

二期 根岸 久雄

北国の夏は六月始めまで低温気味でした。今年はその彩どる霓裳羽衣の麗人が感

冒を召すのでは?と、心配していましたが、夏至とともに暑さが到来し、連日三〇℃を超す真夏となりました。草木は時々刻々に伸びています。人々の活動も激烈です。宿舎の近くの建築現

場は午前三時に作業を始めます。昼休みもそこそこに午後十一時頃まで働きます。それで静寂になるわけではありませぬ。資材搬入の車が開門を求めて、せわしくホーンを鳴らし続けます。

農民の稼動も同様で、「農民車」十二〜十五馬力単気筒ディーゼルの爆音の休む夜はありません。北の国の工人・

農民は、草木の眠る時刻も働きます。地上げ

夏は北国の建設の季節です。今年はず居区改造工事が際立って目につきます。街の一郭が一〜二週の間更に更地にされます。道路に囲まれた方格の地に一字も残しません。この国の「地上げ屋」はマッコト強力・果敢です。更地はすぐに二m余の筋掘り・巨石練り積み

の基礎工事が始まります。集合住宅はエレベーター設置を要しない七階建てが多いが、最近ではエレベーター付きの高層も建てられています。また、一階が店舗・事務所の下駄履き型もあり

ます。数年前建造のものは煉瓦肌画一型でしたが、以降はデザインにも変化が見え、外装も白亜のものとなりました。最近ではより斬新なデザイン、よりカラフルなものが建てられています。

農村も改築ブームです。都市より、より自由で、機能重視の設計や、尖塔のある夢のお城もあります。

道路整備もたけなわです。迂回路の指導標もないまま、全面通行遮断の道路工事を始めます。運転手仲間の情報網は迅速かつ四〜五百km圏に及んでいますが、時にはこの全面遮断に遭うことがあります。土層の凍結深度一・八m〜二mの当地の道路工事では、全幅一

気工事が不可避なのでしょう。国際観光年とかで、高速道路級工事が各地で行われています。

ハルビン市内の道路整備も各所で行われています。街路下に設けた空シエルトアが商店街になっています。厳寒期も霜枯れ知らずの繁盛です。二本目の柳を狙ってか?駅前と中心街に大地下街を作りました。郊外で大規模な工業団地と住宅区の建設も進められています。

中国は貧しさを標榜し、世界に資金を求めています。政府は金がないといわれませんが、社会資本の蓄積はすさまじいものです。これを「民活」というのでしょうか。

商場はいつも「お祭りみたいに賑や

か”です。国営商店・個人商店・露店の三級が市をなしています。どの店も商品が溢れ、果物、野菜、肉、魚等の露店も定価販売です。露店の店主が不在の場合は隣の店主が扱ってくれます。たとえ同種のを商売していても、自分のを買えとはいいません。単価は二桁ときに三桁。計量は三桁ときに四桁。暗算で即座に答えを出します。中国の紙幣は種類が多い上に、記念記号より小型のものがあります。数えるのが面倒なので小銭を全部出すと、あざやかな手つきで必要な紙幣を抜き取り、それを並べて確認を求めます。計量と計算、金銭収受は実に正確です。金額の尻尾を丸めることはしないが、現品を贈与してくれます。三千年の貨幣流通の歴史を感じます。

衣類売り場は実に絢爛です。シルク原産の国、薄さの極限、あてやかな色彩の生地が多い。デザインは北京、上海、広州等国内各地はもとより、香港、日本、フランス等世界のもが所せましと並んでいます。より斬新なものに人気があり、それが大道を行き来しています。下着の色彩までが美を形成します。透光のシルエツトが眩しい。ロシア人の姿が増えました。大きな袋を負って毛皮製品や軍用時計を商い、華麗な衣類や日用品、食糧、白酒などを買入れています。国家段階での対ソ支援は明らかではありませんが、市民レベルの経済支援は、友好的かつ

互恵平等に漁められていると言えるでしょう。

研究機関自助自活命令

中央・地方政府とも金が無いらしい。各政府機関への交付金が減額され、かつ、滞っているようです。職員は公称給与額の二・三倍の実収があったようですが、そのボーナス分が限りなく零に近ずきその代償措置か？機関の自助・自活が指示されました。農業科学院では農民の金を狙って、農産種子の販売を始めました。しかし、水利研究は政府機関が行使する技術基礎を対象とするので、値を吊り上げる買手都合がありません。稼ぐためには、多数の個別需要のものに転じなければなりません。

機関自助は研究変貌の要因ではありません。中国知識人、特に公務員は成功することより、過失を恐れて、あとを残さないことを鉄則として来しました。その鉄則を越えて、目につくものを作らない限り、利は得られません。いま、その岐路に立たせられました。

水質の調査・対策研究の提起はサポートされましたが、浄水器開発を附加したら、研究担当志望が急上昇しました。また、いくつかの試験機器製作・測定方法を指導して来ましたが、労働を蔑視する「研究者」に受けませんでした。いま、特許権申請に沸いています。

大國文化

技術移転での意志表示や、相手の理解の評価は、好(よい)、不好(よくない)、不行(いけない)の三語で足りません。多民族の共通語の簡便さです。だが、会議冒頭や宴会での挨拶は全く別の言語です。万余の漢字、一〇〇万の語彙、古典から現在の必読文献、大家語録をふまえて修辭をこつたものです。

中国知識人は言語文化だけでも、膨大な記憶容量を必要とします。漢字簡体化が進められていますが、知識人にとっては記憶容量の増加であって、簡略化ではありません。

推敲を重ね練り上げた挨拶も、拍手の音と共に消えます。二〇品余の宴會料理も半分以上は環境汚染を増すだけのものになります。これを無駄と思うのは貧者の文化感であって、大國の文化と異なります。大國の文化は、人力、物量の消耗を意に介さないことが文化です。酒地肉林、大海戦術こそ文化と呼ばれるものなのでしょう。中国にも質素・孤高を鼓吹した人土がおりました。日本文化にも大きな影響を及ぼしましたが、中国では敗者のたわごととされてか、記録に残るだけです。

日本は豊かになりました。消費は美德、グルメ志向、一点豪華主義などの言葉も生れましたが、貧しきの開き直りのわび、さび、孤高の尾を引いています。

中国文化は「国土拡大・物産豊富」の大國誇示の文化とも言えます。この

文化の中で育った人々は、大國不壞を当然としてか、困を心配しません。關心事は一・二億の競争です。一・二億の序列の中の順位を高めることです。民主と専制の国際的騒音も意に介しません。自分の順位向上にどちらが有利かを冷静に判断しています。まこと自我の確立した大國文化と言えます。

貴のグルメ

異文化適応実験二年のつもりで来ましたが、既に四年が過ぎました。六十を越すとなかなか馴れたシコウから離れられないもので、自給のため零細生産を始めました。現代風に言うと、「貧している」。私的には、納豆、味噌、甘酒、どぶろく、豆乳、ヨーグルトの手造り。最近はやベークン、火腿(中国風ハム)づくりに挑戦。「貧」のグルメとでも言うべきでしょうか。

公的には実験用器具づくり。高嶺機械は供与したが、最も多用する実験器具や、自己の思考に合った実験装置を設計し、手作りしました。プライドの高い大國の研究者も、童心は抑えがたいのでしよう。おもちゃ作りには手を出し、熱中しました。彼等にも「貧」の文化の因子は潜在していました。



「平和な首都ラ・パス市での国際協力」

二期 三 浦 喜美男

同窓会報第四九号、当地ポリヴィア国のラ・パス市にて拝読いたしました。鯉淵学園の近況が良く理解出来ました。同窓会の一メンバーである筆者が南米の地で「国際協力」に鋭意励んでおります。国際協力及び筆者の活動を同窓会員諸氏に理解戴く上でも以下の内容につき同窓会会報でご紹介願えれば幸いです。

南米の北部に位置するポリヴィア国の国際協力事業団ポリヴィア事務所に赴任して早いもので二か月を経過しようとしております。

筆者が赴任しているラ・パス市は海拔三、八〇〇メートルもあり世界最高地の首都として有名です。ラ・パス空港は更に高く四、一〇〇メートルもあります。国土は約一〇九万平方キロと日本の三倍です。人口は六三〇万人と推計され、インデオが七〇%、メソティンと言われる混血人が二五%、白人はわずか五%です。人口の六〇%が二、五〇〇、三、〇〇〇以上の山岳高原で生活しております。

山岳高原地帯は鉱物資源に恵まれ、錫、銀、銅、鉛、タンクステンなど産出してあります。また、コカインの世

界的生産地として有名で、当国を通じて世界各国にコカインが輸出されております。コカインは麻薬として取り扱われ、製造密輸出の撲滅に現政府は力を入れておりますが、日常人々はこのコカインから製造した「コカ茶」を飲んで居ります。「コカ茶」は高山病等に良く効くと言われ、筆者も事務所まで日頃飲んで居ります。

さて、当国には病院の医師はじめ日本人の専門家が七〇名、青年海外協力隊が八五名、海外開発青年が一八名それに移住者が一、五〇〇名程居ります。筆者の仕事はこういった人達のサポートやポリヴィア政府から要請される技術者等研修員の受入れ、道路、病院等の無償資金協力による建設、地域開発の調査等全般の業務を行なっております。

ポリヴィア国の一人当たりの国民所得は我が国に比べて約五〇分の一程度（GNP/六五〇ドル）であり、国民の生活の安定には基礎的なインフラ整備が急務となっております。したがって、我が国からは農業生産の向上に不可欠な農道の整備や社会インフラとして病院の建設に協力し年間三〇名近い医師

を派遣し熱帯特有の病害に対する技術協力を行なっています。

また、当国政府はセクター別の五年計画を策定していますが、その中で、ポリヴィア政府が特に重点課題として取り上げている家畜、陸稲並びに果樹に関する技術協力を我が国が行なっています。家畜については、家畜繁殖改善センターを無償資金協力により建設し牛の繁殖技術改善を行ない、また陸稲、果樹については生産性の向上を目的とした技術移転を行なっています。さらにまた我が国としては大学への教育・研究協力を行なうため日本の国立の大学の教授達が派遣され、研究機能のアップグレードに協力しております。

筆者の事務所は二〇名で構成されていますが、国際協力事業団(JICA)から派遣された六名のスタッフ以外は日系二、三世の人達で、事務所内は日本語で仕事をしています。「オハヨウ・ゴザイマス」の挨拶にしても彼女らから出る言葉は何処かイントネーションが違い愛嬌があります。しかし、一方、一步事務所から外に出ると、そこにはスペイン語の嵐が待っています。こちらの人々は必ずと言っていい程「プエノス・デアス(おはよう)」「アシタ・マニャーナ(さようなら)」等と挨拶してきます。日常こちらの人達と接触する機会を見付けて、筆者のスペイン語がどれだけ通じるか試して居ます。未知

の世界”での仕事へのチャレンジ、筆者のスペイン語がポリヴィア人の心を捕らえただけポリヴィア国の為仕事をやれるか?あと二年一〇か月頑張りたいと思っております。

ポリヴィア国に対する協力は援助総額(有償資金協力、無償資金協力、技術協力等)からして日本は先進諸国の中で第一位を占めています。手前味噌になりますが日本が何処にあるか、東京が日本の首都であることを一般市民は知らなくてもJICA(ヒカ)の名前が市民に良く知られているのが現状です。「国際協力」がこの途上国では大変重要視されているあらわれです。



激励のため青年海外協力隊員を
訪れ(病院)た所

新年を迎える 陽気なポリヴィア国民

筆者が勤務する国際協力事業団(JICA)ポリヴィア事務所の現地職員であるカルロス・オモヤ氏の招待で昨年の大晦日、新年を迎える晩餐会(パ

テイ)に出席する機会を得たので、南米ボリヴィアの新年パーティーの様子をご紹介します。

オモヤ氏の祖父は第二次世界大戦後福井県から当地のボリヴィア国の首都ラパスに移住してきたが、移住後当国の鉱工業分野の技術開発で大いに貢献をしている。現在は二世、三世の方々が首都のラパスをはじめコチャパンバなど他県にも在住しており、一部の方はJICAの青年海外協力隊員を仕事の関係でお世話をしておられる。

夜十時からオモヤ氏の両親宅で開催されたパーティーには、オモヤ氏の兄弟、親戚など二四カツプルの夫妻が出席された、いわゆる「オモヤ・ファミリー」の新年会である。「三浦さん、今夜は我々の家族の一員として楽しんで下さい」とたどたどしい日本で二世の父親が筆者に述べるその素顔は日本人と言うよりもその風貌は肌が浅黒く、ヒゲをたくわえた立派なヴォリヴィア人である。

定刻の十時になっても未だ他の来客がない。こちらのパーティーは三〇分から一時間は遅れるのが通常で、定刻に現われると招待側が接待の準備中で慌てさせる事になる。同夜も集まって来た招待客は予定通り一時間遅れの十一時頃である。約一時間ワイン、ウイスキーなどを手にし、招待客と歓談をしていると十二時を告げるアナウンスが

ラジオのアナウンサーの声とともに五、四、三、二、一とカウントダウンを始めた。「ヤー一九九三年の新年を迎えまして。本当におめでとうございます。(フェリシターデス)」と言ひお互いに抱擁し合つて頬にキッスを始めました。これには筆者も意表を突かれた。全招待客とのキッスの挨拶が延々三〇分以上は続いたのであろう。日本にはこの様な習慣がないので、南米式の突然の挨拶にはど肝を抜かれた。筆者を知っている現地職員の奥さんは軽く頬にキッスをして挨拶を交したが、多くの方々とは初対面であり握手で対応した。この頬へのキッスの挨拶が終わると今度はダンスが始まった。家族全員が独特の南米の音楽のリズムに乗って踊り出した。「三浦さんも踊って下さい。」と言われ照れはしたがその気になって踊り出す。「上手ですね。」と言われて、またその気になる。リズムがあつて全員が踊り出すからこれが大変楽しい。ランバダのダンスも飛び出す。「私の家内です。良かったは一緒に踊って下さい」と言われて複雑な気持ちになる。

「日本人は新年を迎えるに当たってパーティーをやるのですか?日本と比べてどっちが楽しいですか?」とカルロス氏に尋ねられたが、日本は忘年会でもカラオケで歌を歌う程度でダンスは滅多にしない。また、コタツを囲んでの家族との団欒でお御酒(おみぎ)を

年”を楽しむ。日本と南米は歴史、国民性の違いもある。社交性の違いもある。気候風土の違いもある。その環境の違いは地球の反対側と同様一八〇度も異なっている。この様に陽気で気さくなボリヴィア国民に接していくには、やはり社交ダンスの三ツや四ツくらいは知っておく必要があると痛切に感じた次第である。このダンスがいつ終わつたかは未だ確認していないが、筆者は朝の三時三〇分になってカルロス氏から誘いがかかつて帰宅をした。同夜夕食を取つたのは一時三〇分頃であつたから、多分このダンスは朝の五時頃までは続いたのであろうと推測する。

この様な新年を迎えるオモヤ・ファミリーパーティーに招かれたのは当地に赴任して初めての機会であつたが、南米風の新年パーティーも、活気に満ちており、爽やかな気分であつたと好印象である。

以上、南米の新年のパーティーの様子ですが、鯉淵学園の同窓会員の皆様今年も素晴らしい年に成ります様違い国「ボリヴィア」より祈願致しております。



平成四・五年度 会費納入通知(協力依頼)

— 全国、隅々から、
全員の結果を目指して —

会報発行の度毎に、会費納入のご協力をと題してお願ひしている私達、同窓会の財政は、近年好調の終身会費に支えられながらも、一度、事を起せば、風前の灯に等しき健気さでもあり、「俺の会費は、いつたい、どうなっているんだらう?」の一言に、象徴されかねない事情を孕んでもおります。

平成七年には、学園創立五〇周年を迎えようともしている今日、この内憂を一掃して、正常な会費収入を図り、活動基盤を磐石にしなければなりません。この願望成就を目指して、今回、納入通知を差し上げることにいたしました。どなたも、忘れずに、直ぐに、郵便局まで足を運んで下さるようお願い申し上げます。全国各地、各職域の隅々から、一人ひとりの固い思いが、この書片に託されて、鯉淵に結集されますよう、心から祈っております。

昨秋、ブロック別に開催した、都道府県支部長会議の意向をうけて、この度、同窓会費納入者名簿を作成しました。その結果、平成五年四月末日の納入者実数は、九一八名です。内訳は、終身会費五四二名、四・五年度三七六名、六・七年度一一〇名、八・九年度三五